



2015年7月9日

受益者の皆様へ

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

相場急落に対する考え方

日本株式市場は、中国株式の急落とギリシャのユーロ離脱懸念が重なり、大きく下落しております。また、短期的には日本の景況感がやや低迷していることも懸念材料になっているかと思えます。

しかしながら、我々は日本株式市場の中期的な上昇トレンドに変化はないと考えております。

中国経済、中国株式市場については、これまでの急騰の反動であったと考えており、中国経済のファンダメンタルズの悪化は継続しており、その中で株価が上昇したことの方が異常であり、現状は正常化に向かっているとさえ考えております。賃金上昇の中で、輸出主導から内需主導への転換をスムーズに行なうことは難しく、今後も中国経済のリスクは継続すると考えております。しかし、日本企業、経済にとっては、一部の企業を除き中国経済への依存度は低く、全体への影響は軽微であると考えます。また、現在は日中関係の悪化からの改善傾向にあることから、経済対策も考慮するとインフラ整備等関連ビジネスに関連する日本企業にはチャンスがあるのではないかと考えております。

また、中国経済のスローダウンに伴う商品市況、エネルギー価格の低下は、日本経済にとってはプラスであると思えます。

欧州経済、ギリシャ問題については、日本企業における欧州の売上比率は比較的 low、こちらにも実質的な影響は小さいと考えます。通貨の変動による影響はありますが、日本の金融政策は当面大きな変化がないと考えられることから、通貨変動も限定的と考えます。

今回の日本株式の急落は、4-5月に調整がなかったことから、積み上がっていた利益確定売り圧力が噴出したこと等が要因と思えます。割高な銘柄が一方通行でファンダメンタルズに関係なく上昇する相場の修正はいずれ起こるものであります。

相場急落後には相場の流れが転換することもあることから、夏以降の日本経済の再浮上に伴うファンダメンタルズをベースにした物色への変化が期待できるのではないかと考えます。

したがって、スパークスとしましては、我々が得意とするファンダメンタルズをベースにした銘柄選択の効果が今後高まると考えており、この急落局面は割安になった銘柄への投資する良い機会であると考えております。大きくポートフォリオを変化させるつもりはありませんが、中国経済の悪化を再度精査しつつ効果的なポートフォリオを維持して参りたいと思えます。

今後ともよろしく御願いたします。

以上

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



投資信託の留意点

以下の記載は、金融商品取引法第37条により表示が義務付けられている事項です。お客様が実際にご購入される個々の投資信託に適用される費用やリスクとは内容が異なる場合がありますのでご注意ください。ファンドにかかる費用の項目や料率等は販売会社や個々の投資信託によって異なるため、費用の料率はスパークス・アセット・マネジメント株式会社が運用する投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高料率を表示しております。また、特定の投資信託の取得をご希望の場合には、当該投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」をあらかじめ、または同時にお渡しいたしますので、必ずご覧いただき、投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断で行っていただくようお願いいたします。

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等（外貨建て資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て（ショート・ポジション）取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。

投資信託に係る費用について

当社における投資信託に係る費用（料率）の上限は以下のとおりです。

●直接ご負担いただく費用

購入時手数料	: 上限 3.78%（税込）
換金手数料	: なし
信託財産留保額	: 上限 0.3%

●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	: 上限 2.052%（税込）
実績報酬（※）	: 投資信託により、実績報酬がかかる場合があります。

※ 実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



※実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額を示すことができません。

その他の費用・手数料：監査費用、目論見書や運用報告書等の作成費用など諸費用等ならびに組入有価証券（ファンドを含む）の売買の際に発生する売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建て資産の保管費用等を信託財産でご負担いただきます。組入有価証券がファンドの場合には、上記の他に受託会社報酬、保管会社報酬などの費用がかかる場合があります。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

※ 手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ 投資信託により異なりますので、詳しくは販売会社にお問い合わせ下さい。

<委託会社>

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局（金商）第 346 号

加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 日本証券業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

以 上

■ 本件に関するお問い合わせ先

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

リテール BD マーケティング室

電話番号:03-6711-9170

受付時間:9:00~17:00(12/31~1/3、土日祝日、振替休日を除く)

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。